

「あいさつ・清掃・ゴミ拾い+1」について

『耕人塾』の実践事項は「あいさつ・清掃・ゴミ拾い+1」です。今回は、あいさつ・清掃・ゴミ拾いの趣旨とプラスワンについて詳しく述べたいと思います。

○「あいさつ」(自他尊重)について

「あいさつ」は漢字で「挨拶」と書きますが、「挨」は推す、「拶」は迫るという意味で、意識すると相手の心を推しはかりながら自ら心を開いて近づくということです。時と場に応じ、自分から相手に近づいていくような親しみのある言葉やしぐさは、自分と相手を大切にすることに繋がります。自分も周りも温かい気持ちになるあいさつをしたいですね。

○「清掃」(感謝)について

「清掃」とは、きれいに掃除をすることです。掃除はゴミやほこりを掃いたり拭いたりして取り除き、清潔にすることですから、それをさらにきれいにすることになります。『耕人塾』でも使用した会場を塾生や教学委員が協力して清掃している姿はとても爽やかで和やかな気持ちにさせてくれます。丁寧に清掃することは、使わせていただいたものへの感謝に繋がります。感謝の心を込めて清掃したいですね。

○「ゴミ拾い」(奉仕)について

道路や公園などに捨てられたペットボトルや空き缶、ビニル袋やたばこの吸い殻などは景観を損ねるだけでなく、川から海へと流れて海の生物が汚染されるという大きな問題になっています。ゴミを拾うということは奉仕の心を形に表すことであり、地球環境を守ることにもつながります。喜んでさりげなくゴミ拾いをするようになりたいですね。

「SDGs (エスディージーズ=SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS、持続可能な開発目標)」が世界的に取り組まれています。「SDGs」は2015年9月、国連で開かれたサミットの中で世界のリーダーによって決められた国際社会共通の目標です。「貧困をなくそう」「海の豊かさを守ろう」「陸の豊かさも守ろう」など2030年までに達成すべき17の目標が示されています。それをさらに具体的にした「169のターゲット」が決められました。その中には「人に親切にすること」や「プラごみ等を出さない運動」なども含まれています。第11期は「SDGs」と実践事項「あいさつ・清掃・ゴミ拾い+1」を関連させた取り組みも行っていきたいと思っています。

塾生がそれぞれ工夫して取り組むプラスワンの活動と「SDGs」をどのように関連させるかととても楽しみです。

プラスワンのヒント

6/9(木)の河北新報「声の交差点」に「無人駅高校生の好意感謝」(高橋タエ子 73 仙台市)という心温まる文章が載っていたので紹介(要約)します。「大雨が降った先日の午後のことです。大崎市のいとこの墓参を済ませ、田尻駅に行きました。大雨による遅れなど進行状況を尋ねようにも駅員さんもない無人駅でした。困った顔をしていたからでしょうか。学校帰り的高校生の中の数人が、どこまで行くのか私に聞いてくれました。そして電車は遅れているけれども、間もなく来る電車に乗って小牛田駅で降り、2番線で仙台行の電車を待てばよいと、優しく教えてくれました。大雨にたたられた一日でしたが、見ず知らずの人間にとっても親切に接してくださった高校生のお陰で、豊かな心を取り戻すことができた、飛び切り素敵な一日になりました。」人間力の「徳」をさりげなく発揮している高校生の姿はとても素敵ですね。

『耕人塾』実践事項の各自で工夫する「プラスワン」の参考になりますね。